（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2170400465		
法人名	有限会社夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・正木		
所在地	岐阜県羽島市正木町新井4町目945番地		
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果市町村受理日	平成24年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170400465&SCD=320&PCD=21

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　ぎふ住民福祉研究会
所在地	〒503-0864　岐阜県大垣市南頬町5丁目22-1　モナーク安井307
訪問調査日	平成23年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームの周りには田畑が多く、静かな場所にホームが有りゆったりと散歩が楽しめている。
ホームの庭には四季の花を植え楽しまれている。
クリーン作戦を毎月実行する事で地域に少しでも役立っていると自分達を思う事もできています。
ありがとう、ご苦労様との声も良くかけられるようになった。
広間も広く音楽会、ボランティアの方々の集いも楽しむことが出来ている。
職員のありがとう運動も実行して普通に出来るようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

夢家族・正木は、地域とのつながりを大切にしているホームである。自治会に参加し職員がお宮掃除に出るなどの努力をしており、地域からの誘いが増えてきた。また、利用者と一緒に行なうクリーン作戦は、地域の認知とともに利用者にとっても役に立つ喜びにつながっている。運営推進会議には市町村や民生委員・市会議員・家族など多数の参加があり、運営にうまく活かされており、家族間の交流の良い機会になっている。家族との意思の疎通も大事にしており、職員が電話をかけたり家族アンケートを取ったり、運営推進会議や面会の際にもケアプランを見てもらい意見を聞いたりなど、折に触れ家族の意見をくみ上げる姿勢がある。防災対策では、年4回の訓練のほか、電話のかけかたなど段階を踏んで少しずつ訓練を重ねており、食糧や薬品も備蓄している。利用者に安心して心豊かに過ごしてもらいたいとの願いの元、代表者・管理者・職員ともに志をひとつにしてケアに取り組んでいる。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつでも読むことのできる場所に理念を掲げています。 ミーティングでは理念を読み全職員が共有実践している。	「安心感」という理念を掲げ、利用者が自分の家にいる時のような、安らぎのある暮らしが出来るように心がけている。月に一度のミーティングでは、理念に沿った接し方をしているか職員間で確認しあい、常に立ち返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ドックサロンの見学で話が出来る。 散歩中も畑仕事の方と話をしたり野菜など頂いている。	町内会に入って回覧板を回したり、お宮掃除に職員が出るなど、積極的に交流を図っている。近所のドッグサロンに出掛けた際やクリーン作戦の時に近所の方から声がかかるようになり、花火の時には遊びに来てもらえるなど交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月一度クリーン作戦を実行している。 認知症の利用者が一生懸命行っている姿を見てありがとう、ご苦労様と声もかけられている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の回覧板も来るようになった。 町内の催し物にも声がかかるようになった。 お祭りにも参加できている。	2ヶ月に一度の会議には、行政・職員・市会議員・きずなの会・家族など多くの参加がある。避難訓練を行なったり、外部評価の取り組みを話し合い、報告している。家族同士の交流、利用者と職員の交流が増え、地域行事に誘われるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生保の方の世話、面会に来ていただいています。	生活保護の方への定期的な面会のほか、事業所から相談に行ったり等、行き来しながら連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておりません。 転倒防止のため夜間のみベット柵をする時もあります。 庭での日光浴なども職員見守りで行っている。	身体拘束や虐待防止の勉強会に参加し、職員の意識を高めている。見守り重視の支援をしており、庭にあるカーポートの下で飲食したり干し柿を作ったりして、みんなで開放的に楽しんでいる。ベッド柵は、やむをえない場合に、三点柵を夜間のみ使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受け、勉強会もしている。 事故・けがが発生したらすぐ家族に連絡し説明をする事にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修も受け、勉強会も行いました。 1名の利用者様に成年後見人がついておられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分の説明と入所前の見学をしてもらっております。 入院後での退所はありますが、入院中は身の回りの世話を家族と協力し行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を利用して意見要望を伺う機会とし運営に反映している。又、必要な場合医師も交えて話し合い運営に反映させている。	職員が家族に電話をかけ細かな相談をし、思いを聞いている。家族に対して満足度アンケートを取り、月に一度生活便りなど送る際、要望を書いてもらうよう働きかけ、家族の思いが表出できる機会を増やしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１～２度、ケアマネージャーを交えてミーティング、勉強会を行い意見の交換をしている。	管理者が職員と1対1で面談する機会を作り、話を聞いている。月に一度のミーティングの際だけでなく、少人数のミニミーティングや随時の話し合いの中で職員の意見や思いを聞き、日頃の運営の中で活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者、職員個々は、勤務状況を十分把握して各自が向上心を持って努力し働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	二級のヘルパーの研修に今行っている職員がいます。 法人内外の研修は出来る限り全職員が受ける様にしており研修後は勉強会を行い発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は研修を通して行い良い事は、ホームでも取り入れられるようにしている。 他ホームの見学も行っている「わおん」や「やすらぎ」へ行きました。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、家・病院にケアマネージャーと共に訪問、面談し家族、本人の思いを伺っている。 ホームの見学も入所前にしてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と面談し要望を把握している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、居宅のケアマネージャー、ホームのケアマネージャー、主任など関係者で集まり必要なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は自分たちの人生の先輩である事を念頭に置き接する言葉に注意し楽しく暖かい関係を保って良い一生と思って暮らしていただくよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一度の生活便りで生活ぶりを知ってもらっている。 家族と外食、旅行などしてもらって家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって馴染みの人の面会をお願いしたり、代表者が外出援助をしている。 家族と外出される事もある。	友人の訪問の際は、部屋でゆっくり話しが出来るよう配慮している。在所や旅行に行きたいなど、希望を表す言葉を聞き逃さないよう努め、家族に同行を頼んだり、職員や代表者が外出支援したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、気の合う人たちが話が出来る様座るところも考えている。 散歩を共に仲良く出来るよう考えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	治療が必要になり退所される場合がありますが電話で様子を伺ったり面会できれば行って元気づけている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩時、お茶の時、要望を聞いてミーティング又は、その都度職員で話し合って出来る限りの希望にそえる様にしている。	日々の言動や動作の中から、意向の把握に努めている。特に夜はお茶の時間に一日の出来事を話し合い、どうしたいのかなど利用者の思いを把握している。困難な方は、表情から汲み取る様努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人、家族と面談し生活歴やサービス利用を把握しサービスに活かしている。又、居宅のケアマネージャーからも出来るだけ情報提供して頂くようお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活自立度によって又、その日の気分に合わせて一日のサービスを考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の考え意見を聞いてケアマネージャーがサービス内容を作成しそのサービス内容に添った介護をしている。	毎月請求書と共に文書を郵送し、家族から介護計画への意見をもらうよう努めている。可能な家族は面談し、現場職員の意見や必要な利用者は医師の指示を加え、ケアマネージャーが介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌、申し送りノート、個人ノートを見てその日の状況を確認、確実に知り、伝える事を守っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送りには必ず目を通しその時々に生まれるニーズに対応している。 クリーン作戦などを行って自分たちも貢献できる力を支援してその力を喜びになる様取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	田畑の中のホームなのでのんびり散歩もできる。散歩道のクリーン作戦を行うことで自分達の力を発揮できている。外食で利用者を受け入れてくれる店を探して利用している。散歩の時ペットショップで犬を見せてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にして医療所は選んでいる。今までの掛かり付けで診察して頂くこともできるようにしている。入院医療所も連絡できるようになっている。	協力医に加えて入居前のかかりつけ医を継続することが出来、どちらも事業所への訪問診療が行なわれている。受診が必要な場合、家族が困難な時は職員が同行し、その前後に家族と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を月2回受けていて指導を受けている。職員の中にも准看護師いるので医師との連携はとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族の了解をとって医師、看護師の方より個人情報も聞くことが出来るようにして毎日又は一日毎に面会に行き世話をし病状を聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでは今はしていない。 その事は家族にも話してあり入院され終末期を迎えられる方針になっている。	入居時、事業所では看取りを行わない方針を説明し、了解を得ている。又、終末期の過ごし方については本人・家族の希望を書面にて聞き取り、入院時等必要があればその意向を終末期の医療に活かすよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、訓練は職員全員が受けている。 防災訓練時実践で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年数回行っている。地震対応の訓練も数回行っている。 地震マップも利用者と作り毎日見ている。	消防署への実践的な通報訓練や職員が1人になる夜間を想定した誘導訓練など、昼夜の防災訓練を行っている。防災ずきんや名札、備蓄品も十分に準備し、定期的に点検している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や身体状況に合わせた対応を職員全員が出来る様心掛けている。	この項目は昨年度の目標達成計画に揚げ、1年間取り組んできた。接遇研修会への参加や利用者のすべてのケアにありがとうと答える運動を通して、全職員が利用者の立場に立つ対応に心がけてきた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、散歩、外食などは希望者だけで行く事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の体調、気分も考えて一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に応じて散髪を職員でしている。洋服も季節に応じ考えてアドバイスもする。好みの服を家族と購入されることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはその人の好きな物を聞いて作ります。行事には弁当を作り外で食べることもある。テーブルを拭いたりコップを片付たりされている。	利用者と共に野菜や干し柿を作り食事やデザート・お正月料理に使う等、食事を楽しみなものになるよう努めている。花見や紅葉狩時の手弁当や誕生日には希望の食べ物を作り、また希望者には外食支援も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎日記録して確認し少ない人には職員が介助し摂取していただく様にしている。塩分の制限の利用者さんも有り、気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアーの指導を受け実行している。入れ歯の消毒、清潔に保つよう毎食後洗うように指導介助している。ケアーのストロボを使用している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助者2名ですがバルンの入っている方をのぞき布パンツでオムツ0に努力している。	オムツ0を目標に、本人が行きたい時はトイレ介助を行い、一人ひとりの排泄パターンを把握している。現在、バルーン利用者以外すべてが布パンツになり、夜間は必要者のみパット使用で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの利用者が多く、腸の動きを良くする薬を処方されているが食事の中にも繊維を含む野菜を使うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は決まっているが、本人の希望で入浴日以外に入られることもある。近くの銭湯「わくわくの湯」のスーパーセットは行く事もある。	入浴は週2回午前中であるが、夏は毎夜シャワー浴をすることが出来る。希望者には足浴や湯たんぽも対応しており、近所のスーパー銭湯にも行くことが出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	21時消灯ですが自室でイヤホンを使用しテレビを観られる利用者も有ります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示において服薬支援をしているが、副作用、用法や用量について申し送りノート、往診ノートに記入し職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分で出来る事はできるだけしてもらう様にしている。洗濯物たたみ、片付け自室の掃除など。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩をします。庭で体操をしたり日光浴もします。家族と外食や旅行もされます。	天気の良い日は散歩を兼ねた近所のドッグサロン見学や近隣のゴミ拾い（クリーン作戦）など、利用者の希望に応えて外出している。喫茶店や外食のような個別の外出、選挙時の不在者投票に出かけるなど、職員で柔軟に対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている利用者はいませんが、職員と外食される時に自分で支払いをされる様に必要分を渡します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば使用できる様になっている。 体験学習の生徒さんと手紙をやり取りされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花を飾ります。 広間にはソファーを置きゆったり座ってテレビを観る事もできます。	共用の空間には花々が飾られ、訪問時は美しく飾られたクリスマスツリーが季節感を出していた。壁には利用者と作った布製の防災マップや思い出の写真などが掛けられ、利用者はソファーでテレビを見る等、思い思いに過ごすことが出来る空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士広間で談笑したりボール投げをしたりされている。 カセットで歌も歌っておられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ってある。 女性の方は花を飾っておられる。	持ち込み家具は少ないが、職員の手製の帽子やマット・ぬいぐるみなどが暖かい雰囲気を出している。家族との懐かしい写真やお気に入りのポスター・相撲番付表などが壁に張られ、その人好みの居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考え、トイレ、お風呂には手すりがついている。		